

令和4年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究  
研究実績報告書

1. 研究課題名

地域包括支援センターにおける専門職によるアセスメントの現状把握をふまえた一般住民のためのセルフモニタリングツールの検討

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	井坂 智子	看護学部 看護学科・助教
研究分担者	市川 香織	看護学部 看護学科・教授
	葛西 好美	医療創生大学 国際看護学部看護学科・教授
	八代 裕美子	四街道市地域包括支援センター・保健師

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
社会福祉法人四街道市社会福祉協議会	四街道市地域包括支援センター

4. 研究期間

2022年4月1日～2023年3月31日（1年計画）

5. 研究の目的

本研究の目的は、「基本チェックリスト」を用いて一般介護予防事業者（以下、利用者）の状況を把握する専門職のアセスメントの実態を明らかにし、専門職ならではのアセスメントの過程や判断の根拠を加味したセルフモニタリングツールを作成することである。そして、作成したセルフモニタリングツールが、利用者にとって自らの健康状態を把握し維持できることに寄与するか検証していく過程において地域連携を図るものである。

6. 研究報告

基本チェックリストを用いたアセスメントの現状を把握するため、令和元年度（初年度）に介護支援専門員が行っているアセスメントの過程や判断の根拠、また、基本チェックリストに関する考えについてインタビュー調査をおこなった。令和2年度には、インタビューデータについて、基本チェックリストを用いたアセスメントについて述べた文脈、利用者をアセスメントするうえでの考えを述べた文脈を抽出し、1事例ごとに意味内容に合わせて分類した。

令和3年度は、「基本チェックリストに関する介護支援専門員の考え」について分析を修正し、227コードが抽出された。その中から①基本チェックリストの質問で聞きにくさを感じている点は何か、②聞きにくさを感じる場合にどのようにアセスメントしているか（専門職としての視点）に焦点化し、129コードが挙げられた。

令和4年度にはコードの内容分析を継続して行い、基本チェックリストを用いたアセスメントの難しさとアセスメントの工夫の2つのカテゴリが抽出された。アセスメントの難しさとしては、基本チェックリストの項目通りに質問することへの気遣い、専門職が利用者の情報を正確に把握することの難しさが明らかになった。一方、アセスメントを行う上では、基本チェックリスト以外にもそれぞれの専門職の視点で、質問項目を付け加えて情報を得ていた。利用者とのコミュニケーションを行う中で関係性を大事にしながら、基本チェックリストに沿ってアセスメントを行っていた。

アセスメントツールの案としては、「現在の状態や治療経過・家族関係が明確化されているもの」、「利用者が現在の状態に気づき、目標とする状態を思い描けるようなもの」がアセスメントツールの案として挙げられた。

## 7. 成果の公表

対象者の人権と個人情報の保護に配慮し、研究結果を関係機関に公表していく。

## 8. 総評

### 四街道市地域包括支援センター

基本チェックリストは客観的に評価するものである。その一方で、基本チェックリストを使用していくうえで、支援者側も統一した共通理解や目的を認識していく必要性が明らかになった。データとして挙げられた言葉一つ一つに支援者である専門職の考えが反映していることが理解できたと総評をいただいた。